



生き生きとした自分を見つめるための実用生活誌

はじまりのページ

Shukokai-Magazine The page of beginning

2021 Winter NO.54

特集

じょうせい 培養上清液療法で “慢性疼痛”を治す

～ICVS Tokyo Clinic V2の新しい治療法を紹介～

ダイジェスト版

a News Special

『ICVS Tokyo Clinic V2』
開院記念講演会が開催



培養上清液療法で “慢性疼痛”を治す

～ICVS Tokyo Clinic V2の新しい治療法を紹介～



ICVS Tokyo Clinic V2 ● レセプション



● 診察室



● 細胞培養加工施設

昨年10月、ICVS 東京クリニックの姉妹施設としてオープンしたICVS Tokyo Clinic V2——。再生医療のひとつである“幹細胞治療”の専門クリニックとして、今年、益々活動を本格化させていく予定です。同クリニックが扱う疾病のひとつ「慢性疼痛^{どうつう}」には、“培養上清液療法”という治療法が効果を発揮するといいます。今回の特集はICVS Tokyo Clinic V2 院長の渡辺佳明先生、米国法人蓮見国際研究財団理事長の蓮見賢一郎先生の取材をもとに、培養上清液療法の効果について解説します。

つらい痛みを解消する——
培養上清液療法

「慢性疼痛」とは、一般的に3カ月を超えて持続、もしくは再発する「痛み」を指します。原因として挙げられる疾病は関節炎・がん・糖尿病などの「慢性疾患」、椎間板ヘルニア・靱帯断裂などの「損傷」、神経障害性疼痛・線維筋痛症^{＊2}などの「原発性疼痛疾患^{＊3}」など多岐に及びます。2010年に行われた大規模調査によると、日本の成人人口の22・5%、およそ2315万人が慢性疼痛に悩まされているといえます（「痛み」に関する大規模調査…ムンディファーマ株式会社）。——この病気に効果的に作用するのが、培養上清液療法です。

渡辺先生「幹細胞治療に要する間葉系幹細胞^{＊4}を培養する際、幹細胞は培養液内に500種類以上のタンパク質を含む生理活性物質を分泌します。この培養液から細胞を取り除いた上清液に、減

※1 神経障害性疼痛：神経や脊髄、脳の損傷や機能障害によって起こる痛み。主な原因は帯状疱疹後神経痛（帯状疱疹の後に起きる痛み）など
 ※2 線維筋痛症：関節や筋肉、腱など全身にわたり慢性的な激しい痛みが生じる病気。現時点では、確実に効果のある治療法がみつからない
 ※3 原発性疼痛疾患：原因となる病気がない、あるいは原因不明の疼痛疾患
 ※4 間葉系幹細胞：成体の間葉組織（骨髄や脂肪組織などの結合組織の一部）に含まれる幹細胞。骨細胞・軟骨細胞・脂肪細胞・神経細胞・肝細胞など、さまざまな細胞に分化できる

一步一步確かな足跡を刻む

蓮見賢一郎 医療法人社団 珠光会 理事長

新年あけましておめでとうございます。旧年中はひとかたならぬご厚誼を賜りまして、誠にありがとうございます。

今年の干支は辛丑^{かのうし}です。中国の歴史書『漢書律曆志^{りつれきし}』によると、丑は「紐^{ちゆう}」（からむ・ねじる・曲がるの意味）に通じること。植物の芽が種子の内部に生まれ、外へ向かって伸びようとしているものの、まだ表面には出ていない状態を表しているそうです。まさに「ローマは一日にしてならず」。牛歩の如く、愚直ながら一步一步確かな足跡を刻むことこそ大切な時期なのでしょう。牛は古来「神使（神様のお使い）」といわれていますので、努力さえ怠らなければ、自然と良い知らせが届くでしょう。

昨年は「ICVS 東京クリニック」の姉妹施設となる「ICVS Tokyo Clinic V2」が開院した記念すべき年でした。

同クリニックは、再生医療の一分野である「幹細胞治療」を実施する医療機関です。「幹細胞治療」は、近年めざましい発展を続けている分野であり、日々さまざまな研究報告が世界中から上がっています。

私が「幹細胞治療」に期待しているのは、がん治療に伴う副作用の改善です。たとえば、「ICVS 東京クリニック」で実施する「HITV療法[＊]」のプロトコル（規定・手順）には、放射線療法

や化学療法などの標準治療が組み込まれています。HITV療法は患者様本人の細胞を用いる免疫療法ですので、副作用はきわめて少ないといえます。ところが、標準治療には副作用を伴う場合がありますので、HITV療法によってがんは寛解^{かんかい}しても、標準治療の副作用によって苦痛を強いられるというケースが起きてくるのです。

こうした副作用を、「ICVS Tokyo Clinic V2」の幹細胞治療によって解消させることが、今年の大きな目標のひとつです。幹細胞治療には、「慢性疼痛」の改善など、多様な効果が期待できますので、がんのみならずさまざまな疾病治療の可能性を探っていきたいと考えています。

今年はHITV療法が海外で稼働するシーンも増えるでしょう。以前より予定されていたドイツでの臨床試験もようやく実施の見通しが立ち、タイなどアジア圏への技術移転も計画されています。

新型コロナウイルス感染症は、未だ終息の気配を見せず、風邪やインフルエンザも併せ、感染症対策が必要な期間が続いています。みなさまにおかれましては、規則正しい食生活・良質な睡眠・適度な運動を心がけ、高い免疫力を維持してくださいように。

今年がみなさまにとって、幸多き年になりますよう、心よりお祈りしております。



米国法人蓮見国際研究財団 蓮見賢一郎理事長(左)
ICVS Tokyo Clinic V2 渡辺佳明院長

1 例目は、実は私自身でして……。数カ月
前、右の腓腹筋（ふくらはぎ）を断裂してし
まったのです。皮下出血で足が紫色に腫れて、
とても痛みました。そのときまたま培養上
清液療法を受診できる環境にあったので、右
の大腿動脈から500入れてみたのです。する
と、10分後ぐらいには普通に歩けるようにな
りました。痛みも軽快し、効果は10日間ぐら

渡辺先生「痛みは、実は私自身でして……。数カ月
前、右の腓腹筋（ふくらはぎ）を断裂してし
まったのです。皮下出血で足が紫色に腫れて、
とても痛みました。そのときまたま培養上
清液療法を受診できる環境にあったので、右
の大腿動脈から500入れてみたのです。する
と、10分後ぐらいには普通に歩けるようにな
りました。痛みも軽快し、効果は10日間ぐら
い持続しました。
もう1例は私の親戚で、長年、慢性腰痛で
悩んでいたのですが、培養上清液を入れて10
分ぐらいで、楽になった」といいました。施
術から2週間ぐらい経ちますが、症状は落ち
着いています」
渡辺先生「蓮見先生の場合は、慢性ではなく、急
性になります。それでも培養上清液療法
は効果を発揮したということですね」
蓮見先生「動脈から入れたのがよかったのかも
しれません」
培養上清液は、通常はリスクの少ない静脈
から投与されますが、動脈から入れた方が効
果が高い場合があるといえます。
その分、動脈注射には優れた手技が求めら
れるといえます。患部周囲に張り巡らされた
動脈の中から、薬剤を投与すべき血管を誤り
なく選ばねばならないからです。しかし、血
管内治療のベテランである渡辺先生なら、そ
の点も十分に経験済みでしょう。
渡辺先生「痛みの治療法という意味では、動脈
塞栓療法」があります。これは、チエナム^{※7}

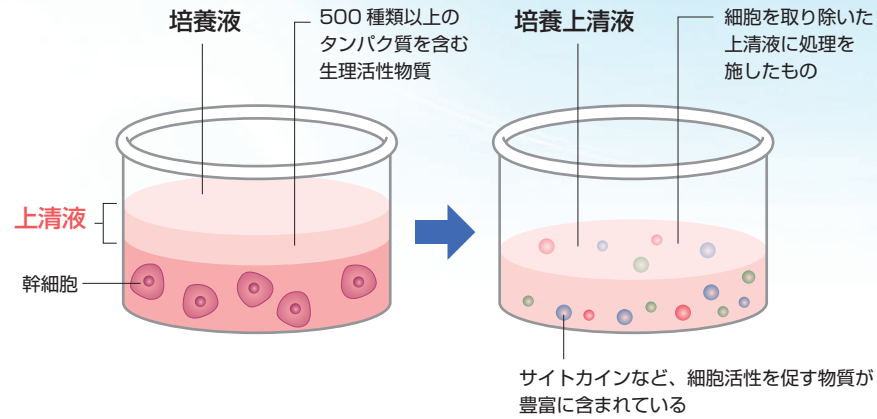
という薬剤をカテーテル^{※8}を用いて動脈に詰
めるという方法ですが、アメリカからの最
新レポートによると、変形性膝関節症では
術後6カ月で80%の患者さんに痛みの改善
が見られ、65%の患者さんに使用する薬剤
の減少が見られたといえます。この動脈塞
栓療法と培養上清液療法を組み合わせれば、
一層素晴らしい効果を上げられるのではな
いでしょうか」
動脈塞栓療法はICVS Tokyo Cl
inic V2で受診できます。施術に必要



血管造影検査に用いられる撮影装置(DSA)

※7 チエナム：細菌の細胞壁の合成を阻害して殺菌作用を示す薬剤
※8 カテーテル：医療用に用いられる柔らかい管のこと。消化管や尿管、血管などに挿入し、体液の排出や薬液などの注入に用いる

図1 培養上清液とは



菌などの各種処理を施したものが培養上清
液です（図1）」
培養上清液には、サイトカイン^{※5}や、成長
因子^{※6}など、細胞活性を促す物質が豊富に含
まれており、障害を受けた組織や細胞の機能
回復に大きな役割を果たしているといえます
（表1）。

表1 培養上清液に含まれる成長因子

EGF 上皮細胞成長因子	TGF-α トランスフォーミング成長因子	TGF-β トランスフォーミング成長因子
● 新しい皮膚細胞を生産すること で、傷口の回復を早める	● 皮膚細胞の成長を促進し、傷の 治癒を促進する ● 新しい細胞の生産を促進する	● 細胞の分化・誘発などの老化を 防ぐ
PDGF 血小板由来成長因子	VEGF 血管内皮細胞増殖因子	IGF-I インスリン様成長因子
● 損傷を受けた皮膚細胞の再生を 促進する	● 新しい細胞の生産を促進する	● 新しい皮膚細胞の形成を促進す る

渡辺先生「培養上清液療法が効果を発揮しやす
いのは、主に、五十肩、変形性膝関節症、腰
痛」などです。もちろん、がん性疼痛を
はじめ、他の慢性疼痛に対しても有効である
ことは、動物実験レベルではありますが検証
されています」
五十肩は病名ではなく、中高年の肩痛を意
味する言葉。国内の患者数は約600万人と
も推計されています。変形性膝関節症は、体
重や加齢などの影響から膝の軟骨がすり減
り、膝に強い痛みを生じるようになる病気で、
自覚症状を有する患者数で約1000万人。
潜在的な患者数（X線診断による患者数）で
約3000万人と推計されています。そして、
腰痛はいまでもなく日本人の国民病。推計
患者数は3000万人といわれています。
この3つの病気だけ見ても、日本につらい
痛みでお悩みの方がいかに多くいらっしゃる
かがわかります。既存の治療法ではなかなか
治らなかった痛みが、培養上清液療法で改善
する可能性が高まっているのです。
蓮見先生「痛みに対して培養上清液療法が効果
的に機能した症例を、2例ほど知っています。

※5 サイトカイン：細胞から分泌されるタンパク質。細胞間相互作用に関与する生理活性物質の総称
※6 成長因子：動物の体内で、特定の細胞の増殖や分化を促進するタンパク質の総称

な「血管造影検査^{※9}」の設備も整っているとい
います。

骨が再生するケースも

渡辺先生「蓮見先生の症例の通り、培養
上清液療法には即効性が期待できます。
足底腱膜炎^{※10}の患者さんが治療直後に痛みが
取れ、普通に歩いて帰ったという例も聞いて
います。」

培養上清液療法によって痛みが改善するメ
カニズムは、はっきり解明されているわけ
ではありませんが、痛みは発痛物質^{※11}などが末梢
神経先端の侵害受容器に感知されて生じま
す。培養上清液療法は、その疼痛感知のプロ
セスに影響を与えているのかもしれない。
また、発痛物質の放出には炎症が関係してい
ますので、炎症を抑える効果があると考えら
れます。

渡辺先生「これは培養上清液療法の話ではあり
ませんが、変形性膝関節症などの場合、幹細
胞を直接投与すると損傷した骨が再生する
ケースがあることがわかっています。幹細胞
治療は痛みを消し去るだけでなく、根本的な
原因に作用し、修復する力があるわけです」
蓮見先生「幹細胞の投与については、現

在、ICVS Tokyo
Clinic V2では特定認定
再生医療等委員会^{※12}に基づき、静
脈投与しかできませんが、早急
に厚生労働省に申請し、動脈投
与も可能にしたいと考えていま
す。

がんの疼痛管理などを麻薬系
の薬剤で行うケースがあります
が、麻薬系薬剤は眠くなったり、
ひどい便秘に陥ったりと副作用
が際立っています。そういった
場合、培養上清液療法を施し、
あとは通常の鎮静剤で対応でき
れば患者様のQOL（生活の質）
も向上するはずです」

慢性的な痛みは肉体的のみなら
ず、精神的な苦痛ももたらし
ます。精神的な苦痛は日々の生
活に影を落とし、痛みを一層増
幅させることにもなりかねませ
ん。手術ほど大規模な処置をす
ることもなく、副作用もほとん
どない培養上清液療法を、明る
く前向きな日々を過ごすために
も、ぜひご活用ください。

Special Information

“培養上清液療法”のモニターを募集します

ICVS Tokyo Clinic V2 では、培養上清液療法のモニターを募集します。
本誌や Web など簡単な感想文を紹介させていただくことを条件に、無料で受診いただけます。
人数は限定 20 名。定員に達し次第、締め切ります。
培養上清液療法の適応・不適応については、渡辺院長が診断します。
慢性疼痛などでお悩みの方のご応募をお待ちしています。ご希望の方は下記まで、電話かファッ
クスでお申し込みください。

《お申し込み先》

ICVS Tokyo Clinic V2

TEL：03-3222-0567 FAX：03-6685-2672

※9 血管造影検査：血管の状態や血液の流れを調べるための検査。太ももの付け根または腕の動脈からカテーテルを通し、造影剤を血管に流
し込みながら X 線撮影する

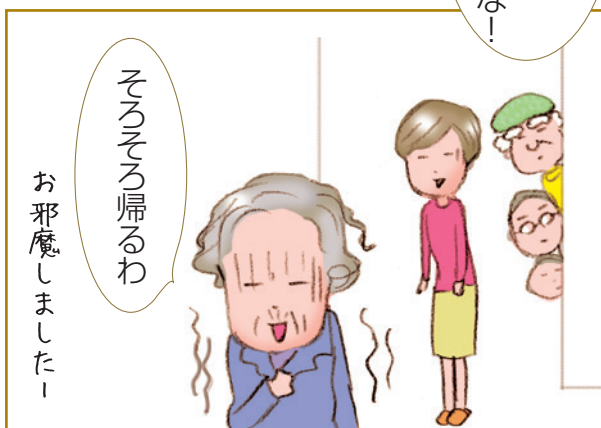
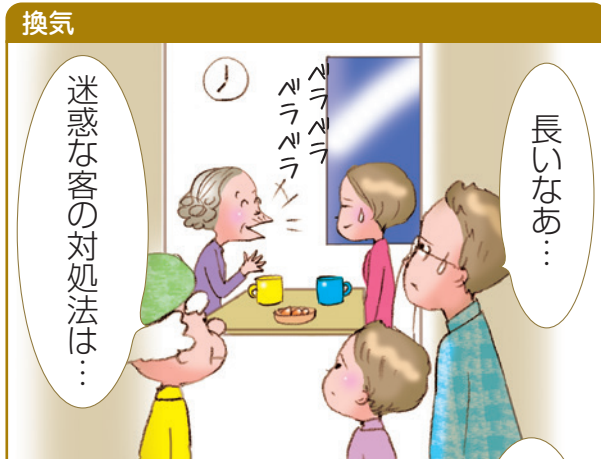
※10 足底腱膜炎：かかとの骨の下側から指の付け根に及ぶ“足底腱膜”と呼ばれる帯状の組織に痛みが生じる状態

※11 発痛物質：痛みの信号を神経細胞に化学伝達する物質。組織の損傷などによって起こる「侵害刺激」によって生じる

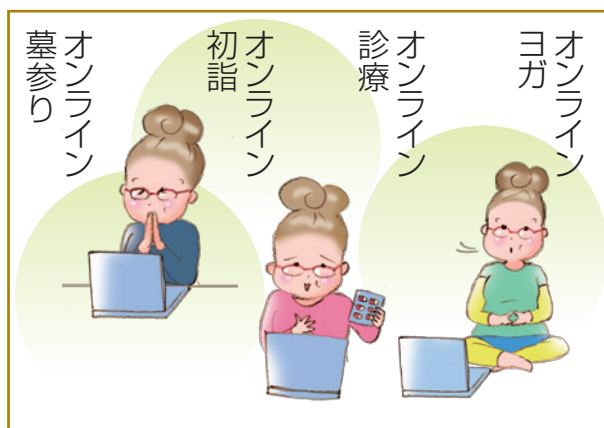
※12 特定認定再生医療等委員会：再生医療等の安全性の確保等に関する法律（平成二十五年法律第八十五号）に基づき、再生医療等提供計
画の審査等業務を行う厚生労働省の設置認可を受けた委員会

小林 裕美子

マンガ家／イラストレーター
東京造形大学・デザイン学科卒業。イラストレーターとして、実用書や児童
書、雑誌、WEB媒体、新聞等に挿絵やマンガを描いている。『美大デ
ビュー』（ポプラ社）、『もち・ぼち』（徳間書店）、『親を、どうする？』（実業之日
本社）、『私、産めるのかな？』（河出書房新社）、『親が倒れた！桜井さんち
の場合』（新潮社）、『産まなくてもいいですか？』（幻冬舎）等、著書多数。



ほのぼのJiJi・BaBa 松&梅



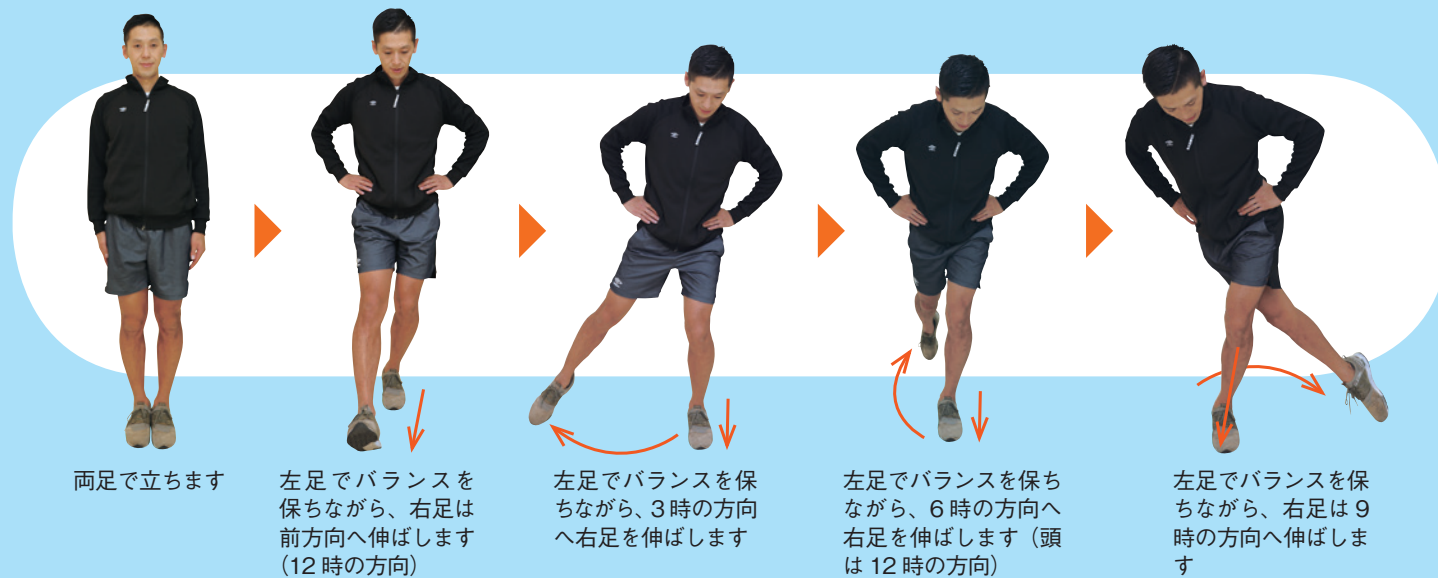
自宅で行う 簡単エクササイズ

～柔軟性と体を支える筋肉を鍛えよう～

体をスムーズに動かすためには、関節の柔軟性と一定の姿勢を保つ筋力が必要です。それらを鍛えることで、動作の効率性が上がり、若々しい動きを取り戻すことができます。室内で過ごす時間が多くなりがちな時期、ICVS 東京クリニック「免疫サポート外来」インストラクターが教えるエクササイズで、関節と筋肉を無理なく鍛えましょう。

1 バランス&リーチ

片足でバランスを保ちながら、逆の足を 4 方向へ伸ばします。伸ばした場所へタッチする感覚です。(左右2回ずつ)



2 首のストレッチ

緊張したり猫背になると、前屈みになって首をそらすことが多いので、首の筋肉に負担をかけてしまいます。首の筋肉を伸ばせば姿勢の改善にもつながります。(左右2呼吸ずつ)

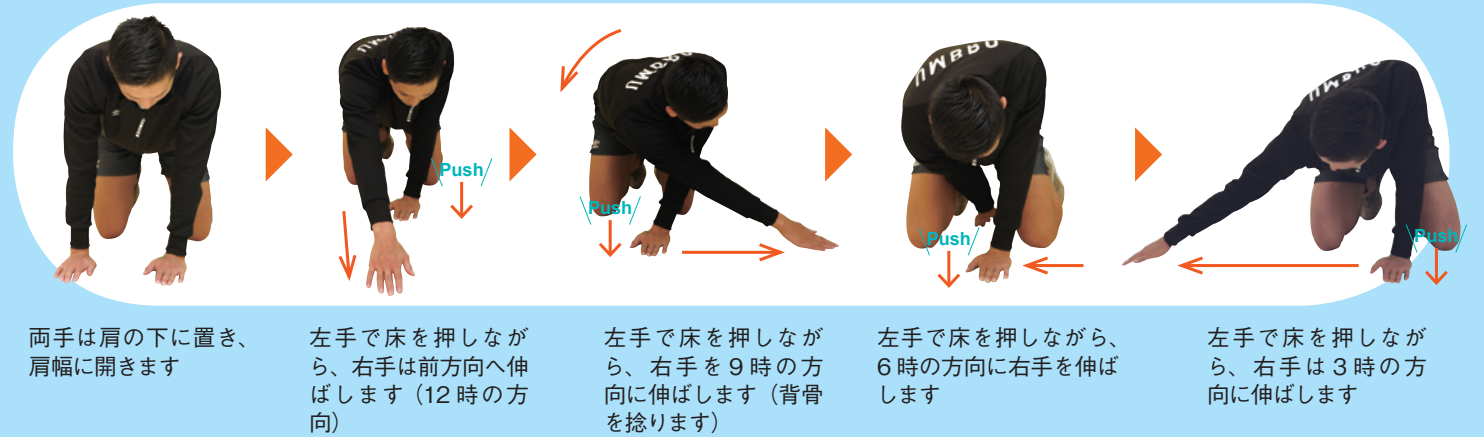


指導：
高橋 昌之 (たかはし まさゆき)
アスレティックトレーナー (ATC)

高校卒業後、アメリカ・ロサンゼルスでアスレティックトレーナーとして研鑽を重ねる。帰国後、専門学校講師を経て、2010 年から 2011 年まで Jリーグ・サンフレッチェ広島専属トレーナーとして、日本代表を含むトッププレイヤーをサポート。

3 ハンド&リーチ

肩の下に手を置き、片方の手で体を支えながら、逆の手を 4 方向に伸ばします。伸ばした場所へタッチする感覚です。(左右2回ずつ)



※ 軸になる手は床を押すようにする

4 ブロックを体の周囲で動かす

ブロックは靴やスリッパで代用しても構いません。(左右2回ずつ)



5 キャット&ドッグ

背骨を前後に波打つように動かして柔軟性を作ります。(10 回)



美味しく
食べて
健康長寿——

かんたん家庭料理

食べて“健康長寿”を目指すお手軽レシピをご紹介します。



たらと白子、豆腐の韓国風キムチ入リスープ

発酵食品であるキムチを使用した韓国風スープ。旬のたらと白子は核酸が豊富。核酸は細胞の分裂と再生に必須の物質です。がんや認知症、動脈硬化を予防する効果も期待されています。

材料
(2人分)

生たら……………2切れ
白子……………100g
春菊……………1束
しめじ……………1/2パック
絹豆腐……………1/2丁
白菜キムチ……………100g
酒……………大さじ4
だし……………500ml
塩……………適量
みそ……………少々

作り方

- 1 たらは流水で洗い、水気を拭いて3cm幅に切り、軽く塩をふり、酒（大さじ2）をふる。白子は海水ほどの濃度の塩水（3%）に浸してふり洗いする。汚れや膜を切り取り、食べやすい大きさに切る。
- 2 春菊は洗って葉をつみ、軸は斜め薄切りにする。しめじは小房に分けて、石づきを切り取る。豆腐は食べやすい大きさに切る。キムチは1cm幅に切る。
- 3 鍋にだしを入れて火にかけ、沸騰したらキムチと酒（大さじ2）、白子を加えて煮る。沸騰したらアクを取り、みそを溶き入れて味を調え、たらと豆腐、しめじを加えて煮る。具材に火が通ったら春菊を加えて火を止める。

料理制作・植木 もも子 管理栄養士、国際中医師、国際中医薬膳管理師。
料理ジャーナリスト・岸朝子氏に師事し、料理記者、フードスタイリストを経て、食関係の多彩な仕事に従事。講演や料理教室、著書などを通して、毎日の食事の大切さを伝えながら「美味しく、楽しく、賢く、健康に」をモットーに健やか料理研究家として活動中。

“治療”と“生活”をつなぐ新しい場所

「HITV女子会（仮）」

～発足会議が開催～



● 会議風景

森本さんは四国からリモートでの参加。他の参加者は全員マスク着用——。しかし、まったく“距離”を感じさせない意見の交流に、今後の展開への期待がいやがうえにも膨らむ

▶ 治療に役立つ経験・知識を共有する ◀

昨年11月、がんでお悩みの方を応援する新しい集まりが産声を上げました。名称を「HITV女子会（仮）」といいます。

その名の通り、参加メンバーは東京・紀尾井町の「ICVS 東京クリニック」が施術する次世代型免疫療法——“HITV療法”によってがんを克服した女性の元患者さんたち。自らの実体験はもとより、治療中に得られたさまざまな知識など、速やかな治療に役立つ多種多様な知見を多くの人たちと共有することを目的に、今後SNSを中心に活動を展開していく予定です。

発足会議に参加したのは、米国法人蓮見国際研究財団理事長の蓮見賢一郎先生をはじめ、子宮頸がん（ⅢB期）をHITV療法で治療させた高野さん、悪性リンパ腫再発に際してHITV療法を受診した高橋さん、そして、HITV療法の治療例第1号となる森本さん。事務局としてICVS東京クリニックの永井事務長、BSL-48 International Clinicの渋谷事務長、同院看護師長の松島さんが

加わりました。

四国からリモートでの参加となった森本さんは、本誌に何度かご登場いただきましたが、2004年に上咽頭扁平上皮がんと肺せんがんとを併発。放射線療法とハスミワクチンでいったんは軽快したものの、2005年に再発し、余命を宣告されます。当時まだ明確なプロトコル（規定・手順）が確立していなかったHITV療法を受診したのは、2006年の1月。同じ年の10月にはPET-CTですべての病巣が消失したことが確認されました。2007年に左鎖骨上リンパ節に新病巣が出現したものの、摘出手術後は何事もなく健康状態を保ち続けています。

現在はがん治療の啓蒙活動で活躍されている森本さん——。培われた知識が「HITV女子会（仮）」でも大きな力になってくれるでしょう。



「HITV女子会（仮）」は、今年活動を本格化させる予定です。活動内容などは本誌、並びにWeb Site「免疫療法コンシェルジュ」でお伝えします。ご期待ください。

『ICVS Tokyo Clinic V2』開院記念講演会が開催

医師4名が“幹細胞治療”について実践的に解説

昨年11月7日（土）、東京の紀尾井フォーラムにおいて医療法人社団ICVS主催の『ICVS Tokyo Clinic V2』開院記念講演会が開催されました。本誌で既報の通り、『ICVS Tokyo Clinic V2』は幹細胞治療を専門とするクリニックです。ICVSの本道である“がんの免疫療法”とは異なる治療法であるにもかかわらず、会場は満員の盛況——。新しい治療への期待満載の講演会は、米国法人蓮見国際研究財団理事長 蓮見賢一郎先生の挨拶で幕をあげました。

●HITV療法を補完する
幹細胞治療

『ICVS Tokyo Clinic V2』開院記念講演会に登壇する演者は4名——。□火を切って登場した蓮見賢一郎先生は、本講演会の総論を医療法人社団ICVSが新たに「幹細胞治療」に取り組む理由、意義などをまじえながら解説しました。

蓮見先生が幹細胞治療に着目したのは、放射線療法の副作用が^{ほったん}発端だといいます。

蓮見先生が開発した次世代型免疫療法——HITV療法が産声を上げたのは2005年頃。2008年には治療の専門施設「ICVS東京クリニック」が開院し、以来、成果を重ねてきました。2018年時点で1000名を超える方が受診し、30%を超える患者様の腫瘍が消失。腫瘍の減少を含めると42%近くの患者様に病態の改善が見られたといいます。全員が第4期・再発のがんだということを考えれば、素晴らしい成績だといえるでしょう。

しかし、HITV療法の普及に比例し、困った問題が浮上してきました。それが放射線療法の副作用だったのです。

HITV療法の特長は、放射線療法や化学療法をプロトコル（規定・手順）の一部として組み込んでいることです。放射線は手術と同じく局所療法——。体の一部分へ集中的に施術されるので、線量が多い場合などには照射部位に後遺症が残

ることもあります。つまり、がんは治癒しても後遺症のために苦痛を強いられるという本末転倒のケースが生じることになるわけです。

「こうした問題を解決するため、さまざまな方法を模索した末に辿り着いたのが『幹細胞治療』でした。多くの論文を検討した結果、急性の炎症反応の段階で用いるのが効果的だと考えています。

この幹細胞治療をHITV療法と組み合わせることで、治療から副作用の予防・改善に至るプロトコルが明確なものになったのです」（蓮見先生）

さらに、BSL-4 International Clinicで実施されている最高度の「がん予防法——「pre-HITV療法」（16頁参照）を加えれば、がんの予防から副作用の手当てに至る、ほぼ完全な「がん包囲網」が成立するのではないだろうか。

「放射線の副作用改善にとどまらず、幹細胞治療はさまざまな可能性を秘めています。それらの可能性を科学的に明らかにし、みなさまのお悩みに実践的に役立てていくことも、『ICVS Tokyo Clinic V2』の大きな使命です」（蓮見先生）

●3名のエキスパートが説く
幹細胞治療の有用性

◆幹細胞は健康長寿のキーワード——劉効蘭先生

米国法人蓮見国際研究財団理事長
蓮見賢一郎先生



蓮見先生に続いて登壇したのは、医療法人社団みき会サンフィールドクリニック理事の劉効蘭先生です。

幹細胞治療の分野で長年の経験を誇るサンフィールドクリニックは、技術アドバイザーとして、ICVS Tokyo Clinic V2にとって欠くべからざるパートナー。劉先生はオーソリテイラしく自らの体験をまじえながら幹細胞治療の歴史と現状を語りました。

幹細胞の研究は1950年代から始まっているといえます。スポットライトが当たったのは、1970年代前半に行われた造血幹細胞（骨髄の

医療法人社団みき会サンフィールドクリニック理事
劉効蘭先生



中で血球をつくり出すものになっている細胞）の骨髄移植。1990年代にはヒトES細胞^{※2}が確立され、2007年には京都大学の山中伸弥教授らのチームがES細胞に似たヒト人工多能性幹（iPS）細胞^{※3}を生成する技術を開発。山中教授はこれらの研究が評価され、2012年にノーベル生理学・医学賞を授与されましたが、幹細胞の研究で同賞を受賞した研究者は7名にのぼるそうです。

幹細胞には「神経損傷の治癒」「免疫能力の回復」「遺伝子の修復」など、優れた能力があるといえます。劉先生は幹細胞治療を含む再生医療の未来を「不老・不病・不死・楽しく生きる」という言

※2 ES細胞：受精後5～7日程度経過したヒト胚の一部から取り出された細胞を、特殊な条件下で培養して得られる細胞。さまざまな種類の細胞に分化する（多能性）があり、高い増殖能力を持つ。一方で、ヒトの生命の萌芽である胚を滅失させるという倫理的問題がつきまとう

※3 iPS細胞：人間の皮膚や血液などの細胞に特殊な因子を導入し培養することで作製された人工多能性幹細胞。ES細胞と同じ能力があるが、倫理的な問題はない

※1 HITV療法のプロトコルが確立された2013年以降に治療を受け、かつ、治療結果を見極められる2年間を経過した患者様を抽出し、まとめた結果

葉で表しました。

「キーワードは、抗老化」です。幹細胞治療は、現在難病の治療をはじめ整形外科、口腔外科、美容外科など多様な分野で用いられています。これらの総和により健康寿命を延ばすことができます。ば、人生を一層楽しく過ごせるのではないのでしょうか」（劉先生）

幹細胞治療には、人の生き方まで変える可能性が秘められているのかもしれませんが。

◆ 幹細胞で慢性疼痛を癒す — 佐野 正行 先生

続いて登壇したのは本日基調講演の講師、佐野正行先生。佐野先生は、がんなどの重症患者、慢性疼痛にお悩みの方々の医療相談専門医として活躍。サンフィールドクリニックでは顧問医の任に就き、ICVSTokyoClinicV2ではサポート医を務めています。

本講演のために選んだテーマは『幹細胞治療の基本知識と慢性疼痛の可能性』。慢性疼痛とは数カ月間から数年間にわたって持続したり再発を繰り返したりする痛みのこと。この病気に幹細胞が効果的に作用するといいます。

「疼痛でお悩みの方12名に、2カ月間幹細胞治療を受診してもらいました。結果は、効果ありと答えた人が33%、やや効果ありと答えた人が50%」。合計83%の人が症状の改善効果を実感したわけ

でられるでしょう。

特に放射線療法は重粒子線や陽子線、IMRT^{※6}など選択肢が複数あるため、先ほど蓮見先生が述べられたような副作用が現れる確率も高くなります。治療によつて損傷された正常細胞を再生させるためには、幹細胞治療が有効だと考えています」（渡辺先生）

渡辺先生は「舌がん」や「放射線性肺炎」「脳腫瘍」などの事例を挙げながら、幹細胞治療の有用性を解説しました。

「放射線治療による抗腫瘍効果が顕著に現れるのは、おおよそ1カ月後」。このタイミングで幹細胞治療を受けるのが効果的です。幹細胞は静脈からより動脈から投与した方が効果が高いということがわかっています。

現在当院は静脈投与ですが、2021年早々には厚生労働省に申請し、動脈投与が可能な環境を整える予定です」（渡辺先生）

◆ ◆ 幹細胞治療を含む再生医療は医療のみにとどまらず、健康長寿全般に大きな福音をもたらしてくれるに違いない。そう確信させてくれる講演会は、満場の拍手をもって幕を下ろしました。

珠光会通信

高い“がん予防効果”を発揮するpreHITV療法

新年明けましておめでとうございます。

本年も皆様にとって、より良き1年となりますことをお祈り申し上げます。

さて、2020年は新型コロナウイルス一色でしたが、がん治療にも影響が及んでいることをご存じでしょうか。コロナウイルス感染症治療が優先され、がん治療に遅れを招いているというのです。

治療したくてもすぐに治療を受けられない、そんな状況に陥らないためには、まずはがんにならないこと。

“がん予防”の重要性をもう一度見直してみる良い機会かもしれません。

珠光会には、いくつかのがん予防方法があります。

その中で、最も予防効果が高いものは、はじまりのページ36号でも特集したpreHITV療法です。preHITV療法は、ご本人の血液から免疫細胞の司令塔である樹状細胞を培養して2～3カ月に一度、体内に戻すというもの。樹状細胞を常に活性化させておくことで、がん細胞または細菌やウイルスが体内で発見された際に、高い異物認識精度で強い抵抗力を発揮するのです。

preHITV療法は、厚生労働省に再生医療等提供計画が受理された第3種再生医療です。通院が必要とはなりますが、がん予防としてpreHITV療法を検討してみたいかでしょうか。もっと詳しくお知りになりたい方は、BSL-48 International Clinicへお問合せください。

また、がん予防という点では、自己注射にて行うハスミワクチンも有効です。

ご自身の健康を維持するために、生活スタイルに合った“がん予防”を実践しましょう。

preHITV療法に関するお問合せ

BSL-48 International Clinic

東京都千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニガーデンコート1F

TEL：03-3239-8101

BSL-48 International Clinic 事務長 渋谷 大介

す」（佐野先生）

幹細胞治療は対症療法ではなく、根治治療^{※4}の可能性を持った治療法だといえます。

「1型糖尿病や肝硬変、肺気腫など、根治が難しいといわれる病気が幹細胞治療によって改善した例が見られるようになりました。

しかし、（幹細胞治療は）万能ではありません。

症状の好転・悪化には生活の仕方が少なからず影響を及ぼします。そうした生活習慣へのアドバイスも含め、患者さん個々に最適な再生医療を実施していきたいと考えています」（佐野先生）



医療相談専門医
佐野 正行 先生

◆ 幹細胞でがん治療の副作用を治す — 渡辺 佳明 先生

講演会のしんがりに登壇したのは、ICVSTokyoClinicV2院長の渡辺佳明先生です。幹細胞治療をがん診療にどう生かしていけばよいのかについて、豊富な事例を挙げながら解説しました。

「2019年12月に発表された国立がんセンターのデータによると、がんの5年生存率は66・4%まで上昇しています。

がんが着実に治る病気になってきた要因には、免疫療法などの進歩に加え、3大療法^{※5}の充実が挙



ICVSTokyoClinicV2院長
渡辺 佳明 先生

※4 根治療法：原因を取り除くことによって、病気を根本から治すことを目指した治療法

※5 3大療法：手術療法、放射線療法、化学療法（抗がん剤）

※6 IMRT：強度変調放射線治療(Intensity Modulated Radiation Therapy)。コンピュータのガイドのもと、正常組織への照射線量を抑えつつ、腫瘍部分に放射線を集中して照射できる先端的な照射技術